

# 婦人会館だより

第18号 2012年10月2日発行

発行者 財団法人みやぎ婦人会館  
理事長 三浦 絢子  
仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地  
TEL 022-299-4530

〈一日研修〉残暑が厳しかった夏もやっとひと雨ごとに肌寒く感じるようになってきました。楽しいレクリエーション、ゲーム、笑いすぎる講話などたくさんのテーマから選んで研修を受けられます。

「学びの秋」に是非、婦人会館に足をお運びいただきますようお願いいたします。

## 〈楽しいお洒落講座〉



第4回目は「毎日の生活を色っぽく～あなたに似合う色を～」。カラーを春・夏・秋・冬の4つに分けて、肌・髪・目の色で自分の似合う色を探していきます。今回は講師の藤原寛子先生が、できるだけ多くの参加者の方に春夏秋冬のどれに当てはまるか診断して下さいました（時間が足りなく間に合わなかった方、ごめんなさい。）。

ついつい地味な色に落ち着きがちですが、様々な色の布を体に当てて、意外な色で顔色がパッと明るくなると妙に納得できます。そして、先生の的確な言葉で自信へとつながり、新しい色に挑戦しようと思う方もたくさんいらっしまったのではないのでしょうか？年を重ねても、新しい発見は、意外な自分を引き出してくれるものですね！！

## 〈出前講座〉～今年度は終了いたしました～

婦人会館では、市町公民館、各種女性団体等に出向き、家庭教育、青少年前育成、女性団体の活動支援等に関する講話を行っております。今年度も多くの団体から申し込みいただき、予定の団体数を超えましたので、今年度の出前講座は終了いたします。出前講座をご活用いただきまして有り難うございました。

## ★親子旅《凧製作と凧揚げ》参加者募集★

秋の親子旅物語では、10月21日（日）、仙台凧の会のご協力のもと泉岳少年自然の家で『凧製作と凧揚げ』を開催します。

自分だけのオリジナル凧を作って、泉岳で空高く揚げてみませんか？

凧の会の連だこも必見です！

体験先：泉岳少年自然の家（婦人会館のバス使用）

参加費：親子一組 1000円（保険料等）

凧の製作は子供のみです。子供二人目は300円の参加費。

ただし、200円追加で大人も製作できます。



申込締切：10月14日（日） お問い合わせお待ちしております！！

## 文化教室紹介 <朗読教室>

朗読教室は会員6名で和やかに大声を出して、どうしたらお腹から声を出して前に飛ばしたらいいのか各自工夫しています。「声の出口はいろいろある」そうです。自分で一番前に届いていると思っている声は実は頭の回りで出ている声だったりして不思議がいっぱいの朗読教室です。

お腹から声を出すために壁に低姿勢で両手をついて両足で踏ん張って声を出したり、投球フォームで「オーイ」と声を出したり本格的な教室です。荒井先生講師の荒井先生は、海外で本格的な訓練を積んだ方でピアノなどの楽器と合わせての朗読などもやっている多才な方です。この機会に是非朗読の楽しさ、奥の深さを味わっていただきたいと思います。



## 行ってきました！



<竹馬の友大学> 9月12日、“細倉鉱山の歴史を辿る旅”と題して、細倉マインパークと鶯沢鉱山資料館に行ってきました。



9月に入っても残暑が厳しく、当日も31℃まで気温が上昇しましたが、マインパークのトンネルの前に立つとひんやりした風がトンネルから吹き出てきました。「半袖では寒いかしら?」「バスから上着をもってこようかな」などの声も聞かれましたが、そのままトンネル内へ…777mの坑道では鉱山の歴史ゾーンとタイムトラベルゾーンがあり神秘的な時間を過ごすことができました。

鶯沢鉱山資料館では、鶯沢町と鉱山の歴史を昔の映像を交えたビデオで視聴することが出来て大変勉強になりました。

## <みやぎの食探訪>

今回は川崎町で“そば粉”を使った料理を教えてくださいました。地産地消で郷土料理を体験できる、まさに『みやぎの食探訪』と言えるピッタリの企画で当日9月20日に、川崎町役場の隣にある山村開発センターで調理実習をしました。講師の菅原邦子さんは79歳で、年齢を感じさせずテキパキと



“そば田楽とそばはっと”を指導して下さいました。会員のみなさんも主婦の方がほとんどなので、手際良くあっという間に出来上がりました。菅原さんの田んぼで獲れたお米の黒豆ごはん、畑で獲れたか

ぼちの煮物も振る舞われました。味はもちろんのこと、胃袋も心も満たされて、自然と笑顔がこぼれる豊かな時間を過ごすことができました。

帰りにはみちのく杜の湖畔公園に寄り、黄花コスモスを愛でて癒されてきました。



## 夏休み企画《親子旅》

第3弾では、8月21日に縄文の森広場に行ってきました。初めに滑石で勾玉づくりをしました。滑石は非常に脆い石なので、子どもたちは慎重に削ったり、磨いたりしてそれぞれ違う形の勾玉が完成しました。

山田上ノ台遺跡の復元住居は、骨組みが栗材を使用しており屋根に土をのせた土屋根タイプの住居になっていて中に入ると外の日差しに比べると断然涼しく感じました。火越し体験はスイッチ一つで火が付く現代において、何もない所から火を起こすのがどんなに大変なことか、理解できたのではないかと思います。

